

8月の思い出

西川浩一路

投稿のあった「終戦の日の思い出」全く同感の念を覚えます。

自分は集団疎開先の滋賀県稲枝の稲枝小学校の作法室（ここが疎開先の宿泊場所兼食堂兼集合場所でした。）で大阪の東平小学校の先生、寮母さんと共に聞きました。

御承知のように録音が悪く、再生用のラジオも性能が悪く日本語としてはところどころしか意味が解らない状況でした。誰も、瞬時に終戦の詔とは理解出来ず、先生達が“耐えがたきを耐え、忍び難たきを忍び”と仰言っているから降参したのでないかと囁き合っている様子でした。

翌日には、終戦のことが確認され大阪から教頭先生が駆け付け、早晩疎開は終了することを話された。その際、“日本は口惜しいが鬼畜英米に敗れた。つまり1等国から3等国に落ちぶれた、この屈辱を忘れず諸君は大きくなれば1等国に還りさき憎い英米に必ず仇討ちしてほしい。”といった趣旨の付言あった。

疎開先から戻った先は元の東平小学校でなく、焼け出された親が辛うじて見つけた布施市（現在大東市）の家から通える布施第6小学校であった。ここで、矢張り疎開帰りの野田君

と同級となり相見知った。小学校時代の記憶は常に腹が減っていてひもじい思いしかありません。近くに占領軍の姿を目にすることが無かったので、占領されているという感覚はあまり感じませんでした。

新制中学2年生の時に天王寺区石ヶ辻町に移り、高津高校はここから通いました。石ヶ辻町は近鉄上本町駅の東南裏に位置し、近くに日赤病院、上之宮中学校がありました。この焼残った鉄筋コンクリートの建物は占領軍に接収されて、上之宮中学が兵員の宿舎に日赤病院が駐留場所になっていました。毎朝、兵士の一隊が上之宮中学と日赤病院間を往復していました。

彼等は、入出門時には整然と隊列を組み歩調を合わせ行進しますが、少し離れると自由歩行を許し互いに私語を交わしながら集団は崩さずブラブラ歩いていました。丁度我が家の前辺りが日赤病院入門の整列隊形とるところで、下士官の号令一下歩調を合わせ整然と行進しなおすのです。

当時、周辺は未だ焼け跡が相当に残っており邸宅跡の池にトンボが飛来し、街中でトンボ釣りができました。

転校先は大阪市立天王寺第2中学校（現夕陽丘中学校）でした。自前の校舎は無くて五条小学校校舎の間借りから清水谷高校の間借りに移り校舎のない中学校の卒業性です。

此処では、英米仇討ち論は影、形なくマッカーサー司令部さまさまと戦争放棄の平和憲法礼賛一辺倒でした。未熟な思考の内にも何か釈然とせぬ違和感と懐疑を抱き以後教師に対する敬愛の念を持ちたいと思いながら遂にその念を学校時代を通じて持ちえずに終わりました。この時代に、日教組が結成され“教師も労働者だから組合を結成し、その大会に参加すると”担任教師が言い訳がましい言辞を述べて授業を自習にして出かけて行ったことなども、教師不信の念を付加させた様にも思います。

この新制中学不信の念で勉強を怠ったツケは大きく高津高入学時に大いなる劣等感を覚えることになりました。高津高の諸先生の熱心な指導のお陰で何とか皆さんに追いつき、世の中の落ちこぼれにならずに済んだのは、まったく有難き幸せで感謝の念にたえません。

つまらぬ、連想の羅列になりましたが。夏休みには随分諸所に出かけ楽しい思い出も多い筈なのに、矢張り鮮烈な夏の日の思い出は野口兄同様終戦の日のことです。広島、長崎の原爆と終戦が盆の時期の忘却出来ぬ記憶です。